

## 平成27年度 第2回吉田町総合教育会議 会議録

- 1 開催期日 平成27年8月12日(水) 午前10時
- 2 場 所 吉田町役場 2階 町民ホール
- 3 出席者 田村典彦町長、塚本成男教育委員長  
浅井啓言教育長、久保田さな江教育委員、大村英行教育委員、  
藁科浩子教育委員  
事務局 水野辰明教育委員会事務局長、松永満教育委員会事務局長補佐、  
鈴木久社会教育統括、岸端大輔主査、吉添祐之主事
- 4 議事内容

### 1 開会

#### ○事務局

それでは、定刻となりましたので、開会に先立ちまして、相互の挨拶を交わします。一同、礼。ご着席ください。

ただいまから、第2回吉田町総合教育会議を開会いたします。お手元にお配りいたしました資料の次第に沿って進めさせていただきます。

#### (1) 町長あいさつ

#### ○事務局

はじめに、吉田町長から御挨拶を申し上げます。

#### ○田村町長

皆さんこんにちは。毎日暑い日が続いておりますけれども、皆さまにおかれましては、貴重な時間を割いて、第2回吉田町総合教育会議に御参加いただきまして、ありがとうございます。

1回目は5月に開かれてございますけれども、この総合教育会議は皆さま御承知のように、教育行政に関する大綱と重点的に講ずべき施策について協議調整する場でありまして、1回目の総合教育会議が開かれた後に、第1回目の教育推進委員会が開かれました。後ほど事務局の方から話があると思っておりますけれども、私がざっとペーパーに目を通した限りで言いますと、基本的に現状についてしゃべるのが大半でありまして、本来この町の教育とか学術文化というものが、やはり地域の実情に基づいて、それを当然加味してですね、教育というものが目指すべき根本というかですね、具体的に語られ

ていないということが私の雑駁な感想なんですけれども。やはりこの場はですね、基本的には、学術文化もごございますけれども、その中心は教育でございますので、ここにおいて吉田町の教育というものが、どれを、何を目指すべきなのかということをやっぴり具体的に語り合う必要が私はあると思ひまして、ぜひともそういう方向で、教育委員会の委員の皆さまにおかれましてはですね、方々の代表ということで意見を出していただきますよう、よろしくお願ひしたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

## (2) 教育委員長あいさつ

○事務局

ありがとうございました。次に、教育委員長から御挨拶をいただきます。

○塚本委員長

皆さん、おはようございます。本日はお忙しい中、吉田町総合教育会議にお集まりいただきまして、お疲れ様でございます。夏休みへ学校の方は入りまして、部活動が、吉田中学がですね、活躍している、目覚しい活躍がですね、新聞でも報道されたりするんですが、田村さんが陸上で全国大会で全中に行くと、野球は惜しくも東海大会で敗れましたが県優勝と、素晴らしい成果を上げていることが本当に嬉しくて、町民も盛り上がっているところだと思います。学校の方も大きな事故もなく、夏休みにプールへ元気に通う子どもたちがですね、元気に夏休みを過ごしている姿を見ると、子どもが輝いている地域というのは、本当に活気のある地域だになってというのが、改めて感じるところであります。

本日は、町長からお話があったように、吉田町の目指すべき教育の方向性を語り合うということになっております。私なりの立場でしてきた経験の中から感じている、吉田町の子どもたちがどうなってもらいたいのか、そして吉田町がどうなっていっていいのかということですね、私なりに忌憚なくお話ができればと思っておりますので、ぜひ皆さんにも多くの意見を語り合って、大綱に向けて大きな一歩となるような会となるよう、ご協力をお願い申し上げます。簡単ですが挨拶にかえさせていただきます。本日もどうぞよろしくお願ひいたします。

○事務局

ありがとうございました。それでは、議事に入ります。議事の進行を町長にお願いいたします。

## 2 議事

### (1) 吉田町教育推進委員会の概要報告について

○田村町長

分かりました。それでは次第によりまして、本日の議事を進行いたします。まず、総合教育会議で新設いたしました、「吉田町教育推進委員会」について事務局の方から概

要報告をお願いいたします。

#### ○事務局

事務局でございます。それでは、第1回吉田町総合教育会議で新設されました「吉田町教育推進委員会」の概要報告をさせていただきます。

レジュメ7ページ・8ページをお開きください。

先月の7月2日木曜日午後3時から、役場5階会議室2におきまして、第1回教育推進委員会を開催いたしました。協議の結果、委員長には静岡大学教職大学院の島田桂吾講師、副委員長には自彊小学校の岩本幸子教頭が選出されたほか、教育推進委員会の目的や役割、今年度に策定する「教育の大綱」の予定が確認されたところでございます。

また、第1回総合教育会議で取り上げた「学校、家庭、地域における教育の課題」を基に、さらに教育現場での実態を把握していくための意見交換も行われました。

レジュメ2ページから6ページを御覧ください。こちらは、前回の総合教育会議の議事要旨と「教育の大綱」策定に向けて、でございますが、教育推進委員会の意見交換のための資料として使用しました。

2ページから5ページまでにかけては、前回の総合教育会議で取り上げた「学校」、「家庭」、「地域」における課題についての発言要旨を記述しているところでございまして、太字で強調している部分が重要な部分でございます。6ページには発言要旨を整理してございます。6ページを御覧いただきますと、発言要旨は「学校が担うべき教育」、「家庭が担うべき教育」、「地域が担うべき教育」、「町が独自に行う教育」に4分類いたしまして、1「現状と課題」、2「基本的方向」、3「具体的方策」というように整理してございます。教育推進委員会では、それぞれの分野の「基本的方向」に対しまして、「具体的対策」としてどんな手立てが考えられるかを中心に意見交換をしていただきました。

レジュメ8ページに戻りますが、教育推進委員会での意見交換内容は、先ほどの第1回総合教育会議と同様に12ページまでに渡りまとめてございますので御覧いただきたいと思っております。

続いて、13ページをお開きください。これが教育推進委員会の意見交換内容を整理したものでございますが、学校、家庭、地域ごと「基本的方向」に対し、解決に向けた方策案を示してございます。その一部を御紹介いたしますが、学校では、「教師が授業に専念できる環境づくりを進め、多様化するニーズに対する時間を確保する」ということに対しまして、生徒指導では学校のみで解決できるものではないため、家庭との連携を図ることや、部活動に関しては外部指導者の導入を図ることが手立てとなり得るとしたものでございます。家庭では、「家庭で行うべき教育を支援し、保護者が子どもを見守る環境づくりを進める」ということに対しまして、子育て世代への必要な知識情報を提供することや、大人のための学習機会を提供することが手立てとなり得るとしたものでございます。地域では、「地域の子どもは地域で育てるといった意識をさらに高め、

地域ぐるみの学びの場づくりを進める」ことにつきましては、地域（OBシニア）の人材を活用することや、「社会教育プラットホーム」の推進を図ることが手立てとして挙げられました。

解決に向けた方策の一端ではございますが、前回の総合教育会議で協議した各分野の課題について、教育推進委員会でさらに協議した結果は以上でございます。よろしくお願いいたしますと思います。

○田村町長

ただいま、事務局から第1回吉田町教育推進委員会の概要報告がございましたけれども、これも中身に目を通して何か御質問等ございますか。

○事務局

それではですね、訂正をすみませんが、よろしくお願いいたしますと思います。

5ページでございます。中段に「幼稚園・保育園から小学校に進級するときや、小学校から中学校に進級するときに生じる不適応現象「小1プログラム」となっておりますが、こちらの方は「小1プログラム」が正解でございますので、訂正をお願いしたいと思います。

○田村町長

教育委員の方、何か御質問等ございますか。藁科先生、いかがですか。

○藁科委員

特にございません。

○田村町長

大村委員は。

○大村委員

大丈夫です。

○田村町長

久保田さんは。塚本さんは。

○塚本委員長

じゃ、1つ。さっき町長が御挨拶でおっしゃられたように、推進委員会での会議内容が、少し、現実的な現状の中で、どう課題を解決していくかっていうリアルなものが挙げられていて、現場の先生方や保護者も入っての話ですから、実情としては、かなり、何とかしないとイケないという、解決しなくちゃいけない問題っていうのが挙げられていて、対応を早急にできることがあるものですから、しなきゃならないなっていうのは感じました。ただ、大綱を作るにあたっての、町としての教育の軸というか、理念的なものが浸透していないのか、そこに議論がいかなかったのか、というのが分からないところなのですが、きっちりその辺、今後定められていくことで、もっと、それに向かってこういう風にしていくという方向性というものが明確に出るようなことがカギになっていくのではないかという感想を持ちました。

○田村町長

何か、事務局、対応ありますか。

○事務局

塚本委員のおっしゃる通りでございまして、少し、教育の現状と課題を語っていく中  
です、やはり、少し足らなかった部分というのが、この吉田町がどのような形で目  
指すべき、教育をしていかなければならないかという視点でございました。そんな中で、  
この後、今回、吉田町が目指す教育について議論を深めていきたいと思っておりますの  
で、よろしくお願ひしたいと思ひます。

## (2) 吉田町が目指す教育について

○田村町長

それでは、次に参りたいと思ひます。次に、「吉田町が目指す教育」について協議し  
ていただきます。協議の方法につきまして、事務局から説明を求めます。

○事務局

事務局でございまして。協議の方法について、事務局から御説明申し上げます。

前回の総合教育会議や教育推進委員会において、学校、家庭、地域それぞれの分野に  
おける教育の課題を協議していただきまして、教育現場の実態はある程度把握できたの  
ではないかと感じております。しかしながら、これからどのように解決していくべきか  
を考える上で、そもそも「吉田町が目指す教育とは何か」ということを明らかにしてお  
かなければ、その道筋がついていかないのではないかと感じております。そこで、教育  
の大綱を策定していくにあたりまして、その施策の中心となるのが子どもたちであるこ  
とを踏まえまして、今回は、まず、「吉田町の子どもたちには、どんな人になってもら  
いたいのか」という視点で御協議をいただきたいと思ひます。

14 ページを御覧ください。協議の参考資料といたしましては、各学校の学校経営書  
を参考に「町内小・中学校の教育目標と実現に向けた取り組みについて」を一覧にいた  
しました。こちらを参考にさせていただきたいと思ひます。吉田町の子どもたちに  
共通した点は、「主体的に取り組むことが弱かったり、自己肯定感が低かったり」とい  
ったところが課題として浮かび上がっております。この点も参考にいただければと思  
ひます。

なお、11 ページを御覧いただきたいと思ひますが、5番目に、教育推進委員会でも  
教育現場で従事する「教師」、「保護者」、「地域活動実践者」に対しまして、教育を提供  
する立場から普段どのような姿勢で教育をしているかといった視点で問い掛けをして  
おります。委員からは「たくましく生きていくための教育」をしていくべきだとの意見  
もございました。

そういう中です、本日の協議は、教育の大綱の根幹に関わる部分でもありますの  
で、よろしく御協議の方、お願ひしたいと思ひます。以上でございまして。

○田村町長

ありがとうございます。これから委員の皆さんに御意見を賜りたいと思っておりますが、その前に、ただいまの事務局の説明につきまして、御質問等があればお願いします。藁科先生、いかがですか。

○藁科委員

特にいいです。

○田村町長

何か、ございますか。何でもよろしゅうございますよ。

○藁科委員

それじゃ、質問でなくてもいいですね。先ほど事務局の方から、11 ページの説明がありましたね。それぞれの立場で、教育者の姿勢ということで。それぞれの立場というのは、学校の教師の立場、それから、保護者の立場、地域の方の立場、それぞれの姿勢で目指す教育ということでお話がありましたけれども、その中の2行目に、太いゴシックで書いてある「吉田町でたくましく生きていくための教育っていうのを考えるべきである」というところ、そのことについてよろしいでしょうか。

「たくましく」ということで、私もこれについて少し考えてみたわけですが、やはり私も、生涯吉田町で、あるいはその他の地域に出た場合も、たくましく生き抜いていく、そういう力を育てていきたいなっていうことを考えています。その「たくましさ」っていうのを、どんなふうに捉えたらいいかということなんですけれども、ひとつは、たくましい健康や体力っていうことがあると思います。

2つめは、「たくましい」っていうのが、やはり、社会に出たときに困らない学力ということで、1つには基礎学力になると思いますけれども、基礎学力を確実につける、それを、扱って活用して、いろんな問題を解決していく、そういうたくましい力があるんじゃないかなっていう風に思います。

3つめは、14 ページにある、各学校の「目標実現に向けた取り組み」っていうところを見たときに、子どもたちが、「困難になると諦めたり人に頼ったりする」という、そういう弱さが残されているところが多いものですから、やはり困難に、あるいは壁にぶつかったときに乗り越えられる「たくましさ」、そういったものが必要ではないかなって、つくづく思います。

それから、もうひとつ4つめですが、私が思うには、自分をコントロールする力、自己を抑制する力と言ったらいいのか、自らを律することができる。いろいろ今、誘惑が多いということがありますでしょう。だから、簡単なことに流れやすいとか、できたら楽をしたいということが多いと思います。マナーにしても、モラルにしてもそうですけれども、そういった部分が弱いということがあると思いますので、そういった時に、正しく判断する力、そういうたくましさっていうのが必要ではないかということで、以上、私はこの「たくましさ」っていうのを4つ、考えてみましたけれども、

どうでしょうか。以上です。

○田村町長

他に、御意見ございますか。

○大村委員

はい。今、薫科先生からおっしゃっていただいた 11 ページのところですけども、「吉田っていいな」って書いてありましてね。吉田町に対する郷土愛っていうのを、ぜひ醸成することを、この教育の柱にしてもらいたいなと思いました。「吉田っていいな」っていうのは、「吉田に生まれてよかった」「吉田の小学校・中学校に通ってよかった」それから、「就職でまた吉田町に帰ってこれた」っていう、そういう郷土愛だと思います。すべての人が吉田町に帰って来いとは言いません。これからの子どもは、活躍する場は全世界だと思います。ただ、吉田町 50 周年の記念の式典をやったときに、当時の読売ジャイアンツのピッチャーだった高木投手が、吉中の時には全国優勝したエースだったんですけどもね、そのずっと前から記念講演にぜひお話をしてもらえないかといったときに、「喜んで伺います」と言って、非常にいい話をしてくれました。高木投手もおそらく郷土愛があったから、我々の思いに応えてくれたんだと思います。

郷土愛といっても具体的施策はいろいろあると思いますが、一部、僕の思いつくところで、学校・家庭・地域・それから町、4つの切り口で、ひとつずつぐらいあげさせていただくと、学校についてですね、最近「学校応援団」というのを作っていただいています、これは欠かせない要素だと思います。いま住吉でいうと、「住小のためなら何でもしてやりたい」と身構えているんですね、お声が掛かるのを待っているんですね、その方をどんどん学校に呼びこんで、子どもさんと交流させていく、もっともこの活動を充実させていくべきだと思います。

家庭についてはですね、やっぱり子どもさんばかり参加する町の地域行事もいいんですけど、家族全員で参加できるような、そういうものを進めていくべきだと思います。親が参加すれば子どもがついてきますし、子どもさんが参加していれば、また親もついてくるので、より活動の中身も深くなるかなと思います。ただ、いま、子どもさんは非常に忙しいので、塾とか習い事、スポーツの練習とかいろいろありますので、その辺のスケジュールの管理は大変だなという気はします。

あと、地域が担うべき分野として、いま実際いろんな活動をやっていただいていますので、これを継続させていただくということだと思います。住吉で一番私がいいなと思うのは、住吉のお祭りでやる「やっこ道中」というのがありますが、いずれ、将来のやっこ衆に挑戦する、育てるという「子どもやっこ」っていうんですけど、住小のお子さんにやっこを覚えてもらってまして、これも披露しています。非常に必要だなと思います。

こういう、吉田町の伝統行事にかませた活動というのは、町でやってくれればと思います。あと、町にお願いしたいのは、実際に町主催の、郷土愛を醸成する施策はいろいろ

やっただけだと思っています。防災訓練だとか、小山城まつりだとか、色々な形でやっただけだと思っていますので、これも継続をお願いしたいと思います。ひとつ思ったのが、これも嬉しかったんですけど、ジュニア防災士訓練というのを、吉田町と、防災士の皆さんと、町の皆さんとやりまして、非常にほめられました、主催者に。吉田中学校の子どもってというのは、本当に前向きに防災のことを考えているんだねって言われまして、どういうことかっていうと、非常に真剣に研修を受けるだけじゃなくて、その後町へ出てですね、町に危険な所がないかどうかって歩いて、帰ってきて模造紙に色々書き込むんですけど、主催者の防災士が何も言わなくても、どンドン自分たちで書き込んでいるっていうんですよね。こういう町は、中学校は見たことがないって言われました。非常に嬉しかったです。それは、町が防災意識っていうのを醸成するために色々なことをやっただけだと思っている、吉田町の特色っていうのを、教えてくれてる、結果、そういう防災士のお褒めの言葉をいただきましたので、今後も、防災っていう意味では、吉田町については非常に大きな柱になると思いますので、町の施策としては、防災をからめた色々な行事を、今後もやっただけだしたいと思います。

最後に、いろんな吉田町の地域活動をやっただけだされた方、たくさん熱心にやっただけだだいてますけど、実際やっただけだだいてると思いますけど、これをどうコーディネートしていくかっていうのが、ひとつカギだと思います。さわやかクラブの皆さんを子ども会とかませて何かやらせてみるとかね、そうすると非常に総合力がまた増してくるのかなと思います。ぜひ、郷土愛を醸成するという柱をひとつ持っただけだきたいというのが、私の願いです。以上です。

○田村町長

久保田さん、何かございますか。

○久保田委員

はい。私は、吉田町の子どもたちに、やはりいま、「生きる力」って言われていますけれども、自分から進んで自ら学ぶ、心豊かな、たくましく生きる、そういった子になってほしいなっていうことを感じています。「生きる力」っていうのは、やっぱり学校教育だけではなくて、家庭だとか、地域だとか、そういった連携、支えあい、そういったものが大事になってくるかなって思います。

11 ページの、上から 5 番目ですか、「自己肯定感を高めていく授業」それからその下の「社会の中で生き抜いていける力を身に付け、生き生きと生活できるような教育」ということに関連してくるかなと思うんですけども、14 ページの「町内小・中学校の教育目標と実現に向けた取り組み」あるいは子どもの実態等を見たときに、やっぱり、「自ら学ぶ子」っていうことが大事だなと思います。実態として、子どもたちは、主体的になかなか取り組んでいけない、受け身的な学習が目立つ、それから、追求する姿勢が弱い、それから、そういった自分から進んで学ぶっていう力がややまだ足りないのではないかなって、各学校の表れがありますので、自ら、意欲だとか、目標を持っただけだ

分からいろんな活動や学習に取り組むことができる子、そういった子になってほしいなと思います。それから、「心豊かな」という部分では、どの学校でも自己肯定感を育む、自尊感情を高める指導だとか、それから、互いに認め思いやる心、自己肯定感を育てるってようなことが挙げられているわけですがけれども、やっぱり自分って大切なんだな、自分っていいな、こんな良さがあるんだなっていうふうに思える、そういうことが、他人を思いやる心だとか、良いこと悪いことの区別がついて、決まりなども守れる、そういったことも「心豊か」という部分に含まれると思います。それからもうひとつ、先ほども「たくましく」ということが出たんですけど、「たくましく生きる」ということが、目当てを持って取り組む、あるいは途中で諦めずに粘り強く物事に取り組める、そういったことに通じてくるのではないかな、ということを考えております。

ちょっと話が長くなってしまいましたが、「自ら学ぶ子」と「心豊かな子」それから「たくましく生きる」そういった「生きる力」を学校や家庭や地域で、共に子どもを育てていく吉田町にしていけたらという風に考える次第です。以上です。

○田村町長

委員長、ありますか。

○塚本委員長

はい、では私からは、私も大切なのは「他人を思いやる気持ち」、理解の心がすごく大切だと思っていて、他人を思いやることができる人間は自分を大切にできる人間になれると、自分を愛することができる人間は家族を愛することができる、地方郷土を愛することができる、とつながると思うんですが、「理解の心」というのは吉田町の子どもたちに欲しい大切なスキルかなっていうふうに思っています。

それと、雑駁になってしまうんですけども、どれがっていうのがなかなか選ぶのが大変なんで、いろいろ言わせてもらいますが、この前私、講演会でこの話させてもらったんですけども、2011年のアメリカのニューヨークタイムズ新聞が、アメリカの大学の先生の話で、2011年にアメリカの小学校に入学した小学生の65%は、大学卒業時には今ない職業、今存在していない職業に就くだろう、ということを書いていて、これはアメリカの話なんですけれども、おそらく日本も、そういう時代を、目覚ましい変化の中で、今ない職業に就かなければならない、就くだろうというような状況が来るだろうということを見ると、さっき藁科先生がおっしゃった「たくましい力」ということや「生き抜く力」というものが、非常につけていただきたい力だと思います。その時に、やっぱり軸になるものをつけていただきたいんで、そういった世界情勢や社会情勢がめまぐるしく変わった中でも、国際人として活躍する人間を育てたいという中でも、そのためにはやはり、大村さんがおっしゃった、郷土を愛する気持ちを持った、国際人じゃないと、アメリカの人間とコミュニケーションをとるのは、吉田を愛する気持ちがある人間が、アメリカ人と「英語を話せる人間」じゃなくて、アメリカ人と「コミュニケー

ションを取れる」「軸を持った」人間だと思いますんで、そういった意味では、国際人であるけれども、国際人としては、日本人としての誇りと自負をもった人間を育てたい、それには、日本人としての誇り、吉田町人としての、吉田っ子としての誇りを身に付けた人材を育てるといふようなところに、注目してほしい大切なことだと思っています。

○田村町長

今、皆さまからいろいろ貴重な御意見をいただいたのですけれども、今から私が話をすると、皆さまからすると「えっ」と思うことを、今からちょっとお話しさせていただきます。

これは、11 ページの(5)で、教育者の姿勢と目指す教育について書いてあります。大きくゴシックで書いてある「吉田町でたくましく生きていくための教育」。「吉田町でたくましく生きていく」って、これ、結果なんですよ。どういう教育をすると、吉田町でたくましく生きていけるんですか。それから、「社会の中で生き抜いていける力を身に付ける」「生き生きと生活できるような教育」、これも結果なんですよ。社会の中で生き抜いていけるような力を身に付けて、生き生きと生活できる、これ、結果なんですよ。どういう教育を施すと、こうなるんですか。これは、違うんですよ。教育の中身じゃなくして、結果を見てるんですよ。どういう教育をすると、たくましく生きていけるんですか。どういう教育をすると、社会の中で生き抜いていく力が身につくんですか。そのための教育、施していく教育内容について、触れてないんですよ。ぜひともそれについてですね、もう一段、ちょっと下に下がるんですけれども、それについて考えていただくと、ありがたいと思うんですけれども。

この前、ある席で私が言ったんですけれども、一番、学校教育の原始的な姿っていうのは、小学校1年生だと思えるんですよ。小学校1年生、そこで一体何を教えるんだろうということ。非常にシンプルな答えが出てくると思うんですよ。学力の、物事を学ぶんだけど、その学ぶ際の「あいう」であるとか、そういう風な言葉や、読み方を覚えるとか、書き方を覚えるとか、そういうことですね。もう一点は、まず必ず、人が話をしているときには聞くとか、皆で一緒に何か活動するとか、そういうような社会が求めるところ、最も基本的なところを教えてもらうんですよ。それからもう一点は、昔から言う、よく学びよく遊べ、ですから、よく学びは今言ったことで、よく遊べは簡単に言えば、身体的な能力を、力をつけていくことになるんですけれども、おそらく、我々吉田町が、目指すべき教育っていうと、誰にも分かる言葉で表現しないと、話がおかしくなってくるような感じがするんです。この前も教育長とちょっと話をしたんですけれども、そういうところがですね、一番問題になってくるんじゃないのかなと。「たくましく生きていく」というのは結果であって、どういう教育を施すとたくましく生きていけるのか、そういう子どもが生まれてくるのか、そこがポイントだと、そういう風な感じがいたしますけれどもね。まあ、つまらない意見で申し訳ございません。教育長、どうですか。

○浅井教育長

町長から今お話があったように、いわゆる 11 ページ、12 ページのゴシックの部分は、結果なんだから、どういう教育を施してくれたっていうところだと思うんですが、そこが、町長が最初に触れた地域の実情に応じたっていうところとすごく関係が深いんじゃないかなって思うんですね。だから、その「たくましさ」だとか「郷土愛」というのが出てるんだけど、もう少しですね、吉田町の子どもにとって、どういう「たくましさ」なのか、そういったところを突き詰めていくことで、そういう施し方とか、どういう教育っていうところが見えてくるんじゃないかなっていう風なことを、一点思います。

○田村町長

教育長、そうじゃなくて、「たくましく生きていく」っていうのは、結果なんだから。

○浅井教育長

結果です、はい。

○田村町長

どういう教育をすると、子どもはたくましく生きていけるんですか。教育の中身が問われている。

○浅井教育長

どういう教育を、っていくときに「たくましさ」の共通理解がないと、その施し方っていう部分にはいかないんじゃないかっていうのが、僕の考えなんですけどね。地域の実情に応じたっていうところは、大事にして考えていかなきゃいけないんじゃないかっていうふうに思うんですよね。一方で、塚本委員長が言った、今後のことっていうところも、視野に入れていかなきゃならないと思うんですね。先ほど言った、今ある職業が存在しないんじゃないかっていうような、そういったときに求められているもの、あるいは、日本の教育が近代化に向けてのものだったのか、情報化社会になって変わってきているってところの、そういったところも、必要じゃないかなっていうふうに思うんです。そんなところで、どうですか。もうちょっと皆さんの意見を聞きながら。「どんな教育を」って、ちょっと私が言ってしまうと決まっちゃう感じがしますので、皆さんちょっと、そこは意見を聞きたいなって思ってるんですよね。

○藁科委員

非常にそのところは難しいと思いますけれどもね、それぞれの学校では、学校の実情に応じて、教育課程っていうのを引いてありますよね。何月には何をやって、とかって。いつにはどんな活動をすることで教育活動を組んであつて。それぞれの教育活動にはそれぞれの目標があつて、子どもたちがこうだから、この活動を通して、こんな力をつける、っていう。で、その活動が終わると、評価や反省ということで、要するに、P D C A サイクルを使ってね、評価や反省をして、さらに次にこういう活動っていうことでやっていると思いますけれども、それぞれの学校で、その学年に応じて、学校全体でもあるんだけど、具体的に、具体の場面で、それぞれ力をつけたっていうことでや

っていますのでね、町長さんがおっしゃったことで、どんな風に答えていいのかなって思ったんですけど。本当の具体的に言っちゃうとね、例えば1年生だったら、幼稚園から1年生に上がるときに、幼稚園は非常に自由ですけれども、小学校になると45分という授業時間というのがありますよね、で、その45分の時間を、じっとね、我慢して、嫌でも座っていたり、あるいはその授業に参加して、その時間に覚えるべきことを、しっかり身に付けるっていうようなことで、自由にちょろちょろ席を立ったりということは、やっぱり我慢、それもやっぱり、ひとつの「たくましさ」を育てる場面だと思ったり、あるいは、学習にしても、この、例えば足し算の、いくつ足すいくつ、あるいは九九にしてもそうですけれども、嫌でもね、やっぱり覚えること、繰り返し繰り返しやるっていうのがね、たくましい子どもを育てる、粘り強く頑張るっていうのもそうだと思います。1つずつ具体的な場면을挙げていくとそうだと思うし、学校では、それぞれの学年に応じて、さっき言ったようにね、こういう場面で子どものこんな力を育てたい、特に今年はっていうことで、重点目標っていうのを決めて、たくましさ、特にうちの学校では、っていうことでやっていたりね、あるいは、心豊かになっていくことで、心の面をすごく育てようっていうね。心の面とたくましさっていうのは、別に切り離す問題じゃなくやっているとと思いますけれども。で、高学年になると、陸上練習とかね、暑い中でもね、嫌だからってやめるわけにいかないし、それぞれの目標を持たせてそれに挑戦させたりっていうことで、やっているとしたいと思いますけれども、お答えになりませんよね。

○田村町長

よろしいんじゃないでしょうかね。

まさに今、藁科先生がおっしゃられたことなんですよ。45分間というのを、机でちゃんと座って、先生の話の話を聞いているっていうこと。まず社会性を覚えさせるということですね。社会に出てきたら、基本的な事柄について、身体的に覚えこませていくんですね。もう一点は、足し算引き算で、数字をあげて、1から、そういう、数字であるとか、足し算引き算、それからあいうえおの読みとか、ひらがなやカタカナの読みとか、そういう風なことは、基本的には、教育の原点なんですよ。どういうことかというのと、ただ単に、意外な言葉で言ってしまうと、学習指導要領により定められて、要は、児童や生徒が、身に付けてもらいたいものについて、身に付けさせるということですね。あとは、身体、当然ながら、身体を鍛える。この2つになるんですよ。だから、必要な学力を身に付けさせる、身体的能力を高める、社会的な規律に従うものを教え込む、これしかないんですよ、教育っていうものは。そういうものを、いわゆる別の言葉で表現すると、教育、目指すべき教育の、基本的な原型っていうんですかね、出てくる感じがしますけど。皆さんいかがでしょうか。

要は、我々は勘違いしているっていうことですよ。たくましく生きるための教育、って言うけど、「たくましく生きる」っていうのは、結果なんですよ。だから、どういう教育をすれば、たくましく生きるような人が生まれてくるんですか。小学校中学校でど

うというようなことをしていけばいいんですか、っていうのを、おそらく、目指すべき教育のコンテンツになっていくでしょうね。そんな感じがして、いつもいるもんですから。

○塚本委員長

難しい話なんですけど、私なりに解釈すると、コンテンツに関しては、藁科先生がおっしゃっているように、各学校の教育目標とか、学習指導要領によってですね、具体的にアクションで起こしていくんですけども、たくましく、の「たくましい」という理念を明確に置くことで、それに導かれるコンテンツは現在考えているということだと思うんです。「たくましい」ということが、吉田町にとってのものすごく重要で大切だということ、ここで決めるか決めないか、っていうことでいいのか、っていうことが今ここで話し合われることだと思うので、そういう意味では、藁科先生がお話されていたこういう解釈もできますよというようなことで、「こういう風に考えることがたくましいってことです」といったことは疑問ですね。それをちょっと、考えていくような形にしていきたいな、していったらどうかなと思うんです。

そういう意味では、吉田町っていうのは、成り立ちからして大井川の河口にあって、川尻は旧大井川だったり、大井川の中にあったり、水害と闘いながら吉田田んぼを開拓して、歴史的に生き抜いてきた。漁業でも成り立たせ、吉田田んぼで、そのあと産業、ウナギですね、養鰻産業という流れになると思うんですが、開拓スピリットっていうのは昔からあるもので、私たちのDNAに根付いているものだと思うんですね。そういったものが、吉田中学の「活力あふれる吉中生」という「活力」という言葉がですね、表していると思うんですね。すごい開拓者スピリット、諦めない力、頑張る力っていうのにつながっていると思うんですね。それはスポーツで高い成果を上げていることや、吹奏楽もそうです、吉田中学が成果を上げていることは、つながってきている。私たちの中にある、吉田町民としてのDNAが、そういう強さ、活力を上げる、たくましさっていうものにつながっていると思うので、そういった意味では、活力がたくましい、活力が持てるっていうことを、私なりに解釈すると、活力やたくましいっていうことは、すごくフィットする言葉だと思うし、実は、そういうDNAがあって、皆そういう風に取り組んでいるんだけど、改めて位置づけることで、改めて、良い機会にし直すっていうか、吉田町ってそういう町で、開拓してきて、頑張ってきて、今も素晴らしい場所なんだっていうのが、学校教育だけでなく、広く長期的に再認識することで、それに向かつての、いろんなことが、いろんな要素があると思うんですが、向かっていける、すごくいい言葉だなんていう風に感じました。「たくましい」ということについての話ですけども。

○田村町長

大村委員はどうでしょうか。

○大村委員

総じて、吉田の子どもっていうのは、社交的だと思うんですね。懐っこいっていうか、

慣れっばいというか。人が好きっていうんですかね。すごく良い特性だと思うんですよ。ただ、懐っこいだけじゃ、たくましいわけではありませんので、社会に出て、やっぱり、バリバリ活動していくには、必要な要素が他にあります。郵便局で新入社員を受け入れたり、その前に就職試験だとか、そういうのをやって、つくづく最近思うのは、我々からすると、自分の言葉で自分の考えを主張できる人、自分の文章で自分の主張をできる人が欲しいです。実際、そういう社員は、やっぱり伸びが早いですよね。そういう社員はたくましい。郵便局ではそういう社員が欲しいので、そういう意味では、会話力、それから文章力ですよね、これを身に付けて、時間はかかると思うんですが、ぜひ小学校中学校の教育で、このウエイトを増やしてもらいたいと思います。もっと言うと、これからの時代は、外国語で自分の主張が言える、外国語で自分の考えがまとめられるっていうくらいまでにしないと、国際化に追い付いていけないので、我々の時代は、まあ英語ができればっていうのがありましたけど、これからは、もしかしたら第2外国語ぐらい求められる時代になるのかなと思いますので、やっぱり外国語の教育っていう力点も置いていかないといけないのかなと思います。以上です。

○久保田委員

吉田の子は、言われたことは素直にできる、あるいは決められたことはやることができる、そういった子が、たぶん多いと思います。しかし、それを長く、続けてやり抜く、あるいは、困難に遭ったとき、それを乗り越えようとする意志力、気力っていうんですかね、そういうところって、やっぱりまだ足りていないんじゃないかなっていうふうだと思うんですね。で、「たくましき」という話が今出ているんですけども、やっぱり、自分で、あるいは学校で、学年で、学級で、目当てを持って、自分から取り組む。でそれを、続ける、やり抜く、それが、耐性っていうところに入ってくるものです。それから、自分もそうなんですけれどもね、困難に出遭うと、どうしても心が折れちゃったり、「ま、いいか」とか、人に頼ったりね、そういった弱気な部分が、心の中で大きくなってしまいうけですけども、やはり、そこを諦めないで頑張るだとか、それから、粘り強くやり抜くだとか、そういった心を持つような支援だとかね、言葉の投げかけだとか、そういったことで、子どもたちの気持ちを向上させていけたらなっていう風に思います。

○田村町長

教育長何かありますか。

○浅井教育長

今、たくましく生きていくための教育っていうところを目指していくときに、どんなことが大事なんだっていうことで、社会性とか、健康的なもの、学力とか、そういったものが出ていると思いますが、やっぱり、町の教育課題等々からも考えていっても、確かな学力っていうのは、やっぱり、どんな場面でも必要になってくるし、それは現在でも、将来でもそうだと思うので、そこは大切なものだなっていうことを私は実感してい

ます。それは、今までの教育委員会の取り組みの中でも、そのところは重点的に取り組んでいるところなので、そういったところっていうのは、一つの吉田町の教育に、「吉田町の教育を受けたら確かな学力が身に付くよ」っていうようなところにつながっていくっていうところが、大切なところじゃないかなっていうふうに、思っていますけれども。以上ですが、今のところ。

#### ○藁科委員

子どもってすごく、場が与えられたり、指導者によってやっぱり変わるなっていうことを感じています。少し放課後の学習支援というものに行かせていただいて、希望参加ということがあるのかもしれませんが、その子どもさんたちが、「今日は何をやる」「何を教えてもらおう」ということで、自分で決めたものを持ってきて、そして1時間やるわけですけども、非常に頑張ってやりますね。それ見たときに、子どもってやっぱり、褒めたりとかいろいろなこともあると思うんですけども、そういう方法で、周りの子どもたちがそういう雰囲気で行ってれば、その中に溶け込んでくる。初めはあまりやる気のなかったような子でも、お互いに刺激されあって、すごく一生懸命やるし、ちょうど1時間ですので、普通の授業よりちょっと長いわけなんですけれども、その時間を一生懸命頑張るっていうことで、非常に良いなっていう風に思ってるし、逆に子どもから、私たちも刺激を受けて、良い気持ちでいつも帰ってくるんですけども、そういったことで、子どもっていうのはその場の状況によって、良い雰囲気とか、良い環境とか、そういう所に入れば、それなりに頑張れるし、ちょっとしたサポートをしてやれば、なんかそれがきっかけになって伸びていくものだなということを感じています。ちょっと話が違うかもしれませんが。

それと、あとそうですね、子どもたち、大人もそうなんですけれど、当たり前なのが当たり前でできるっていうことが、さっきのたくましさに、それも通じていくんじゃないかなと思います。まあこのくらいでいいやとかね、どうしても人間って安易なことになりやすいと思うんですけども、でももうちょっとやってみようとか、こうした方がいいっていう、そういうものをいつも頭において正しく判断してっていうのを、さっき言ったんですけども、やはり、周りの人たちがバスの中でスマホとか、何かやってもこの場はやめよう、って自分でできるか、そういったことで当たり前なのが当たり前でできる、自分でできる、自分を律しできる、そういったことが非常に大事なんじゃないのかな、そういうことを思います。以上です。

#### ○塚本委員長

「たくましい」の話の中で、私がPTAの会長をやって、中央小の挨拶をさせてもらったときに、中央小は「たくましい」が学校教育目標になってまして、「たくましい」っていうものがどういうことかなんていう、その時、考えて挨拶させてもらったときに、単純に「たくましい」っていうと体がすごく強くて、悠々としてて、というようなイメージしやすいけれども、実は「たくましく」の中には心の強さを言っているんだよって

いう話をさせてもらいました。

たくましいの中に、実は他人を思いやる優しい心こそ、郷土を強く思った心こそ、たくましいんだよ、そういうことって大切にしなきゃいけないよって意味では、「たくましい」の中に思いやる気持ちや、ある意味人を愛する心、自分を自慢する心、自己肯定感も含まれるんじゃないか、っていうことで、解釈してましたんで、すごくこの「たくましい」って言葉は、いつも使っていると普通に、いろんな意味で使っていないけれども、いろんな意味で使える、いい言葉だなっていう風に、感じました。

それと、さっきの大村さんのお話で、英語のライティング・スキルのお話がありましたけれども、私はちょっと考え方が違って、確かに、国際人として、外国人と交流していく時代になっていくと思いますが、実は、話をして言葉が通じる・通じないっていうのも大切なことですが、それよりも、「何を伝えるか」っていう、日本とか、日本人としてのアイデンティティとか、そういうもの、「こういう風に考える」「私はこう考え方を持ってる」とうことが、すごく、より大切なものになってくると思ってるもんですから、もちろん、言葉の勉強も大切なんですけれども、それよりもアイデンティティとか、自分の考えをきっちり持つことができる力、というのを醸成し作っていく、育てていくというのが大切じゃないかな。もちろん、コミュニケーション能力も入ってくると思うんですが、すごく大切だっというふうに、感じました。

○田村町長

教育課題の方が、皆さんによって出ているわけなんですけれども、少し、時間が経過しているようですね。皆さんも御承知だと思いますけれども、江戸時代にそれぞれの藩で藩校を作ってますよね。藩校って、初期のおそらく、その藩校都度都度、当然、それぞれの藩主を含めて考えたと思うんですけれども、簡単についていうか、ものすごくシンプルなことで、「嘘はつきません」とかね、「年下の子どもはいじめません」「人に対しては挨拶をしましょう」こういう風な形がかつて、日本の江戸時代の藩校っていうのは教育にシンプルな形を出しているんですよ。だから、文科省がやってるような、ああいう風な、教育基本法第 17 条のような形でまとめるか、それとも、今言った藩校のように、シンプルな形で、ぼんぼんぼんってやるか、おそらく、そういうような形になったら完成するんですよ。なぜ僕が、藩校を、一つの例で言ったかというと、まさに、あれが人間の、いわゆる武士ですね、武士を目指すために藩校があったわけですが、こういう風なわが藩は、こういう風な武士を目指すために、こういう風な教えによって、藩校があったんですよ。嘘は言わないとかね、いじめないとか、挨拶するとか、これ非常にシンプルであるけれども、分かりやすく目指すべき教育になるんですよ。そういう風な、分かりやすい言葉でやるのを、教育としては、方針としてね、1つの考えかなと思うんですけれどもね。

○浅井教育長

今のところ、非常に大切なことだっと思うのは、分かりやすさっていう面もそうだし、

何でやっているのか、っていうことも分かるし、受けている子どもたちも、そういうことがいつも頭の中に、あるいは、大人も、頭の中にあるっていうことが、大事だなと思います。私実は、あるところの藩校の、どんなものかってこと見てみたんですけども、その中には、決して偏ってるっていうんじゃないで、やはり、知・徳・体、たとえば、「目上の人の言うことをしっかり聞きなさい」とか、それは、家庭のしつけの中で、大事だと思うし、学校で言えば、「先生の言うことをしっかり聞く」ということにつながっていくので、そこは最後の、いま町長がおっしゃったように、仕上げのところ、そういう分かりやすさとか、皆がそれを合言葉にできていくってことは、大事じゃないかなと思うんですよね。住吉神社の前と、神戸の集落センターのところと、川尻の公民館のところと、学習ホールのところですかね、あそこに、実は吉田町教育委員会で掲げた「非行防止」みたいなキャッチフレーズですかね、非行防止、社会教育的なものかなと思うんですけども、合意に達してっていうか、掲げていく方法もあると思うし、簡潔明瞭でわかっていく、もちろん、柱はあるにしても最後のところは、簡潔明瞭になっていく、そういった方向も、僕は充分いいかなと思う。そういう風にしていかないと、変わっていかないですよ。我々、教育政策として打っていく方もそうだし、実践していただく方もそうだし、そんなことを思いましたので、はい。

○久保田委員

今の話の中でね、挨拶っていう話が出ましたけれどもね、あるところを訪問したときに、保育園、小学校、中学校、家庭で、挨拶っていうことで、一貫してできていて、やはり素晴らしい成果を上げているところもあるっていうことをね、聞いたんですよ。やっぱり、そういうキャッチフレーズ的な分かりやすさっていうのか、そういったことも大切なのかなっていう風に感じました。

○田村町長

実はですね、これ、役場の中で恥ずかしい話なんですけれども、この2、3年で採用した職員は、挨拶が大きくできていないんですよ。朝来ると普通はね、「おはようございます」「おつかれさまでした」とね、そういうことが、ぱっぱと右から左へ出てこないんですよ。おそらく教育を、しつけていうんでしょうかね、できてないんですよ。たくましく生きていけないんですよ。少なくともそんな感じがしています。

○藁科委員

今、町長さんに言われてね、はっとしたんですけどもね、「嘘はつきません」「年下の子どもはいじめません」「挨拶をします」、そういうものは本当に大事だということで、子どもの基礎基本になることで、学校でもやはり、具体的に子どもたちに下ろすときには、こうやっているんですよ。「今月は挨拶週間だから」とかね、「挨拶を重点に置くから」ってね、私は一年生を受け持った時に、「あいさつの「あ」はね、明るくのあだよ、「い」はいつもだよ、「き」は先にだよ、「つ」は続けてだよ」。そうすると挨拶っていうのはね、明るく、先にこっちから続けてできるしね、相手も気持ちよく

なるっていうことを、教えもしてきていたということを出してね、具体的にはそのようにやっているんですよ。だけれども、学校ってというのは非常に欲張りな所があるんですよ。あれもこれもって、網羅的に。なんとなく、挨拶だけやったって他の部分が欠けている、欠落しているのが心配っていうか、あれもこれもってなっちゃうものだから、非常に網羅的なものになって、欲張ってしまうということで私も困るんですけども。簡潔明瞭で、というのは非常に大事だなと、今思い反省させられました。

○田村町長

たとえば、「いじめてはいけません」と言いますよね、もし仮に、「人は、いじめてはいけません」というのを、小学校一年生のころから、そういうのを小さなときから唱えさせると、そういう風になるんですよ。「人は、いじめてはいけません」と。いじめちゃいけない、そういう意識が芽生えちゃうんですよ。そういうふうには、小さい時から分かりやすい言葉で、いつも皆で唱和させると。社訓なんかもそうですよね。会社なんかでもね。大きな声で何度も言うとかね、そういう風に言っていると、そういう風になるんですよ、面白いことに。だから、そういうことから、小さい子どもたちも分かるような言葉でやっていかないと、一人相撲してしまうような感じになるもんですから、その辺のことも、目指すべき教育の中で、考えていったらいいんじゃないかなと、そういう風に思うんですけどもね。

大村さん、いかがですか。

○大村委員

町長さんもおっしゃってるように、私も新入社員に、社会人になってから社会人のいろはを教えなくちゃならないなって、何でこんなことしなきゃいけないのかなっていうくらい知らないですよ。挨拶が違っても怒られないので、怒られた経験がないんですよ。怒られたとかなんとかっていうんじゃないけども、人と会ったら先に挨拶するっていう、教えてもらったんでしょうけれども、小学校の時にね。それがだんだんだんだんこう、抜かしちゃって、実際大学に行って、社会人になったときに「挨拶しなくても別に怒られないから」とって、やっぱり、小さい時からの継続性っていうんですかね、つくづく大事だかっていう風に思いました。社会人になってから、やっぱりいろはを教えたくないしね。吉田町の出身者は、しっかりとその辺の基礎ができている、という風になるといいなという風に、つくづく思いました。以上です。

○田村町長

久保田先生、何かございますでしょうか。

時間も大分きたようでございます。ここで話したことは、第2回の教育推進委員会に投げられるわけですよ。またそこで、話してもらって、次の第3回の総合教育会議の席に移るわけなんですよ。そのときもまたありますんで、もしまた、さらにご意見があれば、ぜひ伺いたいと思いますけれども、いかがでございましょうかね。

○浅井教育長

私の立場でこれ言っているかどうかわかりませんが、今日は、目指すべき教育の方向っていうか、そういうことで話をしてきたんだけど、もう一つ、いま、町長や皆さんの発言、学校もそうだし、もちろんしつけの部分っていうのも出ているので、やっぱりつながるっていうか、生涯にわたって学んでいくような教育っていうか、システムになっちゃうかもしれないと思うんですけども。そこってやっぱり、吉田町でオリジナリティが出せたらいいなって思うんですけども。生涯にわたって、学び続けるような教育ができていくっていうか。そこが、一番大事なところじゃないかって、今の例えば挨拶をすることかいうのもそうだろうし、前も話したかもしれませんが、寿大学の閉講式だとかそういったところで一度話をすると、本当に、私の顔を見て話を聞いてくれるので、緊張するんですけども。吉田中学校の春の選抜の優勝を寿大学の春の閉講式で話をすると、皆さん拍手をしてくれるんですけども。自分のことのように。それは、今日話題に出てきた、郷土愛が育ってるんだろうし、中学校のことは、自分のこと、自分の町のことって、なっていく、やっぱりそういったことが、引き継がれていくように、生涯にわたって、学び続けていくような教育を提供していく、そういうことが大事なんじゃないかなって感じています。的外れかもしれませんが、ぜひそこは、教育推進に投げたいところかなっていう風に思っています。

○大村委員

一つ、郷土愛のところで言い忘れたんですけど、いま、私のように住吉に生まれて住吉に育った生徒さんもいれば、縁があってお父さんの転勤の関係で、途中から吉田町に来られたって子どもさんもいらっしゃるって、吉田町に生まれ育った人ばかりを郷土愛、郷土愛っていうことでやると、何か、途中から吉田町に来られた方が疎外される、いじめの対象になったら大変なことになるので、転校されてきてね、途中から縁あって吉田町に住むことになった子どもさんへの配慮っていうこともしていかなないと、あんまり、十把一絡げで郷土愛郷土愛と言い続けても、危険っていうか、あらぬ弊害を生むことがあるので、非常に気を付けてやる必要があるなと思いました。以上です。

○田村町長

あともう一言、お話ししたいっていう方があれば、ぜひともお願いします。よろしくございますか。

(委員全員の賛意あり。)

○田村町長

それでは、熱心な議論をいただきありがとうございました。

以上で、本日の議事を終了しますので、進行を事務局に返します。よろしくお願います。

### 3 閉会

○事務局

町長、委員の皆さん、ありがとうございました。

次回の総合教育会議の予定なのですが、日程調整をいたしまして、決定をいたしましたら、皆さまにご連絡いたしますので、よろしく願いいたします。

以上をもちまして、第2回吉田町総合教育会議は閉会いたします。恐れ入りますが、相互の挨拶を交わしたいと思いますので、御起立願います。一同、礼。ありがとうございました。